



年表

天王寺動物園

これまでのあゆみ



- 1884 (明治 17) 大阪府立博物館附属動物檻、設置 (現在の中央区本町橋 2 丁目)。
- 1915 (大正 4) 1 月 1 日、大阪市立動物園として開園 (大人 5 銭、小人 3 銭、4 歳未満無料、飼育動物数: 60 種以上 230 点、面積: 26,025 m²、年間入園者: 約 57 万人)。
- 1916 (大正 5) 春に夜桜開園、夏には納涼夜間開園を実施。
- 1919 (大正 8) 7 月、東京帝室博物館よりシロクジャク 1 羽を譲り受ける。
- 1921 (大正 10) 6 月 21 日、スマトラサイを 23,500 円で購入 (日本初)。
- 1925 (大正 14) 10 月 24 日、ダチョウの人工ふ化に成功 (日本初)。
- 1926 (大正 15) 11 月 11 日、アジアゾウの常盤 (雌) が来園。
- 1927 (昭和 2) 10 月 8 日、チンパンジーの太郎 (雄) が来園。
- 1928 (昭和 3) 12 月 30 日、31 日を休園日として制定。それまでは無休であった。
- 1929 (昭和 4) 3 月 16 日、ウォンバット、ハイロカンガル来園。
- 1930 (昭和 5) 武徳殿付近の公園通路を園内に取り入れる (総面積 26,670 m²)。
- 1931 (昭和 6) 4 月 11 日、マンドリル来園 (日本初)。
- 1932 (昭和 7) 4 月、第 1 次拡張計画着手。
7 月 23 日、名演技で有名になったチンパンジーのリタ (雌) 来園。
- 1933 (昭和 8) 6 月 28 日、ブチハイエナ初来園。
- 1934 (昭和 9) 4 月 1 日、地下道、東側壁に淡水水族館開設。
6 月、鳥根県隠岐島北西の竹島で、ニホンアシカ始め 16 点の海獣、海鳥を捕獲し展示。
6 月 24 日、チンパンジーのロイド (雄) 来園。
チンパンジーのリタの演技が人気を集める。
1932 年から着手した第 1 次拡張工事が終了、この工事でキリン舎、ホッキョクグマ舎、海獣舎完成 (総面積 57,270 m²)。
年間有料入園者過去最高 251 万人を記録。
- 1935 (昭和 10) 4 月 1 日、開園 20 周年記念動物園まつり開催。
6 月 4 日、シャム国少年団より親善のためアジアゾウのランブル (雌) が贈られる。ソウ放飼園、カバ舎新設。
天王寺公会堂跡を編入 (総面積 60,570 m²)。



- 1936 (昭和 11) 6 月 17 日、ニホンアシカ初繁殖。
- 1937 (昭和 12) 5 月 29 日、オーストラリア、シドニー市タロンガ動物園と動物交流でウォンバット、アカカンガル来園。
出征勇士のためにトラの毛を求める人々増える。
- 1938 (昭和 13) 3 月 18 日、レッサーパンダ初来園。
4 月 9 日、空襲、天災事変に備えて逃走猛獣捕獲演習実施。
7 月 10 日、時局がら、納涼夜間開園を中止 (恒例では 7 月 25 日から 8 月 25 日まで)。
8 月 ~、動物たちにも節約による愛国運動がおよび、絶食日や代用食を給与することとなる。
- 1939 (昭和 14) 輸入統制のため、新しい動物の来園がとどえてくる。
- 1940 (昭和 15) 7 月 23 日、チンパンジーのリタ (雌)、死産の後死亡。
7 月 29 日、リタの動物園葬を行う。
8 月 14 日、土木部より教育部に所属変更 (教育部動物園)。
8 月 ~、動物の飼料不足始まる。
11 月 ~ 12 月、チンパンジーのロイド (雄) の日本名への改名が問題となる。後に勝太と改名。
空襲、天災事変に備えて逃走猛獣捕獲演習を行う。
動物にも絶食日や代用食を給与する日が増加。
- 1941 (昭和 16) 5 月 20 日、紀元 2,600 年を記念して「動物 2600 年史」発行。
8 月 14 日、教育部より総動員部へ所属変更 (総動員部動物園)。
- 1942 (昭和 17) 1 月 20 日、燃料、飼料不足のためアジアゾウのランブル (雌) 死亡。
3 月 20 日、アジアゾウの常盤 (雌) 死亡。
6 月 11 日、総動員部より市民局へ所属変更 (市民局動物園)。
- 1943 (昭和 18) 1 月 23 日、林佐一園長退職、後任、寺内信三園長。
4 月 27 日、阪神バーク閉鎖に伴い、アジアゾウのトム (雌)、カンガル、サル、ツル等の無償譲渡を受ける。
9 月 1 日、防空演習、動物射殺の演習を実施。
9 月 4 日、ヒグマ他 3 頭の猛獣を業殺。猛獣類の処分始まる。
園内の空地はサツマイモ、麦畑、菜園となる。
- 1944 (昭和 19) ~ 3 月 15 日、前年 9 月から始まった猛獣類の処分でライオン始め 10 種 26 頭を犠牲にする。
9 月 7 日、寺内信三園長召。有料入園者は 41 万人と急降下。
食糧不足により、ゾウ、キリンなどが栄養失調のために死亡。入園者が興味を持つ動物たちがどんどん減少していく。



- 1945 (昭和 20) 3 月 13 日、大阪大空襲で園内に焼夷弾 2,000 発落下、猛禽舎焼失、オオワシなど 10 種 33 点死亡。出征中の寺内信三園長の後任に筒井嘉隆園長就任。
9 月 15 日、市民局より教育局社会教育課に所属変更 (教育局社会教育課動物園)。
- 1946 (昭和 21) 2 月 8 日、寺内信三復員に伴い園長に再任。
2 月 15 日、教育局より教育部に所属変更 (教育部社会教育課動物園)。
- 1947 (昭和 22) 7 月 22 日、教育部より土木局に所属変更 (土木局緑地課動物園)。
11 月 1 日、大阪市復興祭動物園子供大会開催。
- 1949 (昭和 24) 3 月 3 日、タンチョウ 2 羽 (雄、雌) 購入。
- 1950 (昭和 25) 4 月 14 日、戦後初の外国産動物としてタイからアジアゾウの春子 (雌) 来園。4 月 15 日、1 日の有料入園者数 6 万人を超える (過去最高)。
- 1951 (昭和 26) 5 月 31 日、チンパンジーのシュジー (雌) 購入。
10 月 18 日、ライオン、トラ、ヒョウ来園。
- 1952 (昭和 27) 3 月 20 日、大阪産業経済新聞社・大阪市共催の講和条約成立記念「婦人と子ども大博覧会」が公園および動物園を中心に開催。
第 2 次拡張工事が行われ武徳殿跡、日本庭園を編入 (総面積 83,670 m²)。
- 1953 (昭和 28) 5 月 24 日、トラ (3 頭) の繁殖に初めて成功。
- 1954 (昭和 29) 4 月、5 ヵ年計画で園内施設改修工事に着手。爬虫 類舎および小鳥の家新設。
12 月 4 日、ベイサオリックス来園。
- 1955 (昭和 30) 4 月 8 日、ベイサオリックスの繁殖に成功 (日本初)。
12 月 28 日、博物館相施設に指定される。
- 1956 (昭和 31) 1 月 11 日、オオアライクイ初来園。
- 1957 (昭和 32) 3 月、動物慰霊碑除幕式。
4 月 1 日、動物園駐車場開設。
- 1958 (昭和 33) 1 月 13 日、ドリル初来園。
- 1959 (昭和 34) 7 月 11 日、土木局から公園部に所属変更 (公園部動物園)。
11 月、サイ舎新設。
- 1960 (昭和 35) 6 月 11 日、セイランの人工ふ化に成功 (日本初)。
10 月、ゴリラ舎新設。
- 1961 (昭和 36) 4 月 1 日、動物園改造 5 ヵ年計画に着手。
10 月 30 日、ニホンジカ放飼場および水禽放養舎新設。



- 1962 (昭和 37) 1 月 27 日、キリン舎、サルアパート完成。
1 月 31 日、寺内信三園長退職。
後任、和田辰巳園長。
3 月 31 日、ペリカン舎、オランウータン舎完成。
- 1963 (昭和 38) 8 月 12 日、ライオン・トラ放飼場・寝室完成。
11 月、南園小宝亭を編入 (総面積 87,470 m²)。
年間有料入園者戦後最高 169 万人を記録。
- 1964 (昭和 39) 5 月 6 日、アミメキリンの初繁殖に成功。
5 月 9 日、シュバシコウの繁殖に成功 (日本初)。
7 月 4 日、大阪市立動物園を大阪市天王寺動物園に改称。
- 1965 (昭和 40) 7 月 17 日、第 3 次拡張工事で天王寺公園グラウンドを編入 (総面積 103,970 m²)。
11 月 1 日、開園 50 周年記念式典・記念祭を開催。動物園月刊誌「なきごえ」創刊。
- 1966 (昭和 41) 7 月 26 日、大暑の日、ホッキョクグマに氷柱をプレゼント (以後、恒例となる)。
12 月 12 日、サンフランシスコ動物園よりリカオン来園。
- 1967 (昭和 42) 3 月 31 日、ラクダ・カンガル舎完成。
10 月 20 日、カバ舎完成。
- 1969 (昭和 44) 10 月 3 日、オーストラリア政府よりニシクロカンガル受贈。
- 1970 (昭和 45) 5 月 5 日、日本万国博覧会を記念してインド政府よりアジアゾウのランニー博子 (雌) 受贈。
6 月 24 日、日本万国博覧会を記念してアメリカ政府よりプレーリードッグ受贈。
7 月 9 日、日本万国博覧会を記念してニュージーランド政府よりキーウィ受贈 (日本初)。
- 1971 (昭和 46) 1 月 1 日、サンパロ訪日企業視察団よりオニオオハシ受贈。
- 1972 (昭和 47) 4 月 1 日、入園料改定で中学生以下無料となる。
4 月 17 日、和田辰巳園長退職、後任、中川道朗園長。
- 1973 (昭和 48) 4 月 1 日、サンフランシスコの姉妹都市提携 15 周年を記念して当園からタヌキ、サンフランシスコ動物園からダマジカ (白変種) の動物交換。
4 月 4 日、公園部から公園局管理部に所属変更 (公園局管理部動物園)。
- 1974 (昭和 49) 7 月 5 日、日中国交回復を記念した動物交換でタンチョウ、モウコガゼル 2 頭 (雄、雌) (日本初) が北京動物園から来園。
8 月 22 日、上海・大阪友好都市提携を記念して上海動物園よりチュウゴクオオカミ 2 頭 (雄、雌) (黒変種)、マナヅル 2 羽 (雄・雌) 来園。
- 1975 (昭和 50) 2 月 1 日、開園 60 周年を記念して、サンディエゴ動物園よりシンリンオオカミ受贈。
8 月 1 日、第 1 回サマースクール開催。
10 月 2 日、サンディエゴ動物園よりコヨーテ受贈。
10 月 8 日、シカゴ、リンカーンパーク動物園よりカナダヤマアラシ来園。
11 月 29 日、韓国、昌慶園動物園よりワシミミズクとチョウセンヤマネコ来園。





- 1976 (昭和 51) 5月、大阪動物園ボランティアーズが発足。
7月20日、ビルマ(当時)、ラングーン動物園からムツアシガメ、ムテヒビ来園。
- 1977 (昭和 52) 1月27日、バングラデシュ、ダッカ動物園からジャングルキヤット来園。
8月2日、モウコガゼルの繁殖に成功(日本初)。
11月2日、上海市との第2次動物交流でベニジュゲイ4羽(雄2、雌2)来園。
- 1978 (昭和 53) 2月17日、ワシミズクの繁殖に成功。
4月16日、ジャングルキヤットの繁殖に成功(日本初)。
11月3日、上海市との第3次動物交流でニホンコウノトリ2羽(雄、雌)来園。
11月4日、こたりの家が日本宝くじ協会の寄付で完成。
- 1979 (昭和 54) 5月5日、大阪信用金庫様より白雪姫時計台受贈。
6月1日、中川道朗園長退職。後任、橋本一郎園長。
6月29日、オーストラリア、メルボルン動物園からワライカワセミとヤブツカツクリ来園。
- 1980 (昭和 55) 7月25日、バカの繁殖に成功(日本初)。
7月29日、アカハシリウキウガモの繁殖に成功(日本初)。
- 1981 (昭和 56) 3月20日、コウノトリ舎完成。
10月28日、上海市との第4次動物交流でチュウゴクオオカミ2頭(雄、雌)(黒変種)来園。
- 1982 (昭和 57) 7月3日、ニュージーランドのオトロハンガ動物学協会からキーウィ3羽来園。
- 1983 (昭和 58) 5月31日、橋本一郎園長退職。後任、土井良彦園長。
10月5日、オーストラリア・ヴィクトリア製造業会議所よりハリモグラ受贈。
10月12日、上海市との第5次動物交流でニホンコウノトリ2羽(雄、雌)、フランソワルトン2頭(雄、雌)来園。
- 1984 (昭和 59) 3月28日、キジ舎完成。
10月26日、オーストラリア・タスマニア州よりタスマニアデビル受贈(日本初)。
- 1985 (昭和 60) 1月15日、夜行性動物舎、レクチャールームがオープン。
4月10日、開園70周年を祝って上海動物園よりコジャコウネコ2頭(雄、雌)、アオミミキジ2羽(雄、雌)受贈。
10月13日、開園70周年記念シンポジウム「動物との共存を図るために」を開催



- 1986 (昭和 61) 4月27日、サル・ヒヒ舎完成(ヒヒ舎は日本宝くじ協会の寄付)。
- 1987 (昭和 62) 3月31日、東門、駐車場閉鎖。
6月3日、上海市との第6次動物交流でニホンコウノトリ、アジアゴールデンキヤット、コジャコウネコ来園。
8月1日、天王寺公園と動物園を会場に11月8日まで開催された天王寺博覧会に合わせて「鳥の楽園」がオープン。
11月16日、ホッキョクグマのユキコがこゆきを出産。(本州以南で初の成功)
- 1988 (昭和 63) 5月14日、ガラス張りのヒョウ舎完成。
- 1989 (平成元) 3月31日、土井良彦園長退職。後任、伊東重朗園長。
5月2日、コアラ館完成。
6月1日、オーストラリア、メルボルン動物園から第1陣コアラ3頭(雄1、雌2)来園。
11月6日、レッサーパンダ舎完成。
11月6日、上海市との第7次動物交流でレッサーパンダ2頭(雄、雌)クロトキ4羽来園。
- 1990 (平成 2) 2月24日、新世界ゲートを新設し南門を閉鎖する。天王寺公園との組織一体化に伴い、天王寺動物園事務所となる。
4月25日、オーストラリア、メルボルン動物園から第2陣コアラ3頭(雄1、雌2)来園。
10月26日、ガラス張りのオオカミ舎完成。
5月24日、日本のシシオザルの繁殖計画を策定し、国際協力でアメリカのワシントン動物園から雌来園。つづいて8月3日アメリカのセントルイス動物園から2頭(雄、雌)来園。
- 1991 (平成 3) 3月31日、伊東重朗園長退職。後任、中山良三郎園長。
7月26日、コアラの繁殖に成功(当園初)。
10月2日、上海市との第8次動物交流でヨウスコウワニ2頭、アネハヅル2羽来園。
- 1992 (平成 4) 9月8日、チンパンジー・オランウータン舎が完成。
- 1993 (平成 5) 3月24日、ドイツ・ライプチヒ動物園からメガネグマ(雄)来園。
5月24日、上海市との第9次動物交流でウンビョウが来園。
6月11日、ニホンコウノトリの繁殖に成功(当園初)。
7月16日、シンガポール動物園からチンパンジーの親子来園。
10月14日、(社)日本動物園水族館協会の種保存委員会全国拡大会議が大阪で開催され、同協会総裁の秋篠宮文仁親王殿下が天王寺動物園をご視察。

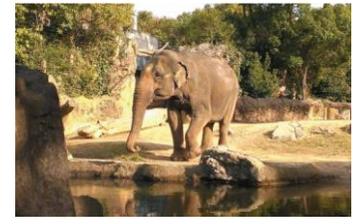
- 1995 (平成 7) 3月、ZOO21基本計画案策定。
3月23日、生態的展示の手法を取り入れた爬虫類生態館(IFAR)がオープン。
3月31日、中山良三郎園長退職。後任、樽本勲所長。



- 4月4日、上海市との第10次動物交流でヨウスコウワニ、チュウゴクオオタマガメ来園。
5月15日、ニシゴリラのゴロ(雄)を千葉市動物園に貸出。ゴリラの飼育が途絶える。
9月9日、開園80周年記念式典を大阪国際交流センターで開催。一日園長に柳生博さんと大塚露那さんを任命。
10月7日、開園80周年を記念してオーストラリア、メルボルン動物園からコアラ2頭(雄、雌)来園。
- 1996 (平成 8) 1月2日、ワレンヨロイトカゲ自然繁殖(日本初)。
2月20日、シンガポール動物園からマレーグマ2頭(雄、雌)来園。
4月26日、マダガスカルジャコ人工繁殖に成功(日本初)。
6月23日、タンザニアアカノドジャコ人工繁殖に成功(日本初)。
9月27日、シンガポール動物園からスナドリネコ2頭(雄、雌)来園。
10月7日、クロサイのサトミ(雌)をアメリカ、カードウェル動物園に貸出。
10月29日、カラカル2頭(雄、雌)繁殖(当園初)。
- 1997 (平成 9) 3月31日、樽本勲所長退職。後任、井坂進所長。
6月10日、上海市との第11次動物交流でヨウスコウワニ4頭(雄4)、コジャコウネコ2頭(雄、雌)来園。
6月28日、ヒョウモントカゲモドキ自然繁殖(日本初)。
7月3日、レッサーパンダのテンテン(雄)誕生(当園初)。
9月23日、生態的展示の2番目の動物舎として、日本初の水中を見ることが出来るカバ舎オープン。
10月28日、フロリダアカハラガメ繁殖(日本初)。
- 1998 (平成 10) 2月12日、フサオネズミカンガルー(雄)繁殖確認(当園初)。
6月10日、ナベヅル(雌)繁殖。(当園初)
13日に2羽目(雌)繁殖。
10月17日、生態的展示を取り入れたサイ舎オープン。
12月2日、ヒョウモンガメ繁殖(当園初)。
12月20日、フクロモモンガ繁殖(当園初)。
- 1999 (平成 11) 2月17日、当園が中心となり日本のシシオザルの繁殖計画を策定しアメリカのウッドランドパーク動物園の協力を得てシシオザル6頭(雌6)を受け入れ、当園を含む4園に配分。
3月31日、井坂進所長退職。後任、中川哲男園長。
9月12日、ニューギニアナガビガメ3頭繁殖(当園初)。
6月16日、上海市との第12次動物交流でアジアゴールデンキヤット2頭(雄、雌)来園。
11月11日、クロサイのサミー(雄)誕生。

- 2000 (平成 12) 平成12年度に、建設局花と緑の推進本部よりゆとりとみどり振興局に所属変更(ゆとりとみどり振興局天王寺動物園事務所)。
2月20日、レクチャールームで行う「獣医さんのお話」を開始。(毎月第3日曜日例化)
4月22日、大阪信用金庫様より受贈したクロサイのブロンズ像の贈呈式を開催。
5月19日、アジアゾウのエリ子(雌)死亡(50年飼育)。
8月8日、ナベヅル1羽(雌)をベルギーのホウカンショウ繁殖保護センターへ贈る。
8月25日、アフリカサバンナゾーン草食動物エリアオープン。

- 2001 (平成 13) 4月24日、秋篠宮文仁親王殿下ご夫妻が来園され、園内をご視察。
12月28日、上海市との第13次動物交流でナベヅル(雄)来園。
- 2002 (平成 14) 4月9日、クロサイのサミー(雄)をイギリスのチェスター動物園へ貸出。
6月15日、カンムリシロムク繁殖(当園初)。
8月17日、クロエリセイタカシギ繁殖(当園初)。
9月15日、大阪信用金庫様よりログハウス調の授乳室受贈。
10月15日、ゾウの糞から堆肥をつくる有機性廃棄物高速発酵処理機を設置。
- 2003 (平成 15) 3月11日、(社)日本動物園水族館協会主催の動物園の教育利用を促進するためのワークショップを開催。
3月12日、宝塚動物園の閉園にともないホオジロカラムツルはじめ5種11羽来園。
4月21日、22日、新ゾウ舎完成に伴いアジアゾウ引越越し。
6月11日、トムソングゼル(雄)繁殖(当園初)。
ゾウの糞からつくった有機堆肥「エレファント・ダン」の市民配布開始。
7月1日、ナベヅル1羽(雌)をベルギーのホウカンショウ繁殖保護センターへ貸出。
7月22日、ナベヅル1羽(雄)をベルギーのホウカンショウ繁殖保護センターへ貸出。
12月8日、フトアゴヒゲトカゲ来園(当園初)。
- 2004 (平成 16) 1月16日、新しく完成したアジアの熱帯雨林ゾーン(ゾウ舎)を報道関係者に事前公開。
1月31日、アジアの熱帯雨林ゾーン(ゾウ舎)の完成記念式典を開催。
大阪信用金庫様より受贈した子ゾウのブロンズ像除幕式挙行。
2月19日、上海市との第14次動物交流でミニゼンザンコウ2頭(雄、雌)来園。
2月24日、キバラスズガエル自然繁殖(日本初)。
3月31日、中川哲男園長退職。後任、園田義昭園長。
4月25日、フトアゴヒゲトカゲ繁殖(当園初)。
5月2日、ホッキョクグマのユキコ(雌)が老衰で死亡。
6月14日、ビルマニシキヘビ2頭繁殖(当園初)15日、16日、17日にもそれぞれ2頭、7頭、2頭が繁殖。
6月19日、「飼育係のおしゃべりガイド」を開催(毎月第3土曜日例化)。
6月30日、アイゾメヤドクガエルが繁殖(当園初)。
7月5日、ベンガルヤマネコ(雄)が福岡市動物園から来園。
7月12日、ブチハイエナが繁殖(当園初)。
10月15日、ツキノワテリムクが繁殖(当園初)。
10月25日、大阪国際交流センターにおいて、第52回日本動物園水族館協会動物園技術者研究会を開催。
10月26日、秋篠宮文仁親王殿下が来園され、園内をご視察。
12月、アジアの熱帯雨林ゾーン(ゾウ舎)が市民ZOOネットワークのエンリッチメント大賞を受賞。





2019 (平成 31) 3月21日、春のナイト ZOO「SPRING NIGHT ZOO」を開催。
 7月23日、第21次上海市動物交流により雄のジャガーが上海動物園から来園。
 9月11日、グラントシマウマのヒデオシ(雄・27歳)がエランドの雄と闘争し角で腹部を負傷したことが原因で死亡。
 9月27日、カリフォルニアアシカのキュッキュが行方不明になり、前日の池掃除の際に排水口から脱出したと思われるので下水施設の搜索。
 10月1日に発見。
 10月10日、当園職員が同行し、コアラのアークがイギリスのロングリートサファリパークへ出園。
 11月22日、てんしばゲート横の新エリア「てんしば i:na(イーナ)」が近鉄不動産株式会社との協定による事業として開業。
 12月17日、公益社団法人日本動物園水族館協会の動物園技術者研究会を当園が開催園となり開催。ご臨席のため来阪された秋篠宮皇嗣殿下が爬虫類生態館(アイファア)やカバ舎などをご視察される。
 12月28日、ビューマのピコ(雌・17歳)が死亡。

2020 (令和 2) 2月17日、天王寺動物園 101 計画アクションプラン評価会議を開催。
 2月21日、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、夜行性動物舎、コアラ館、は虫類生態館(アイファア)を当面、閉鎖。各種イベントも開催中止。
 2月27日、3月31日をもって閉園するみさき公園からマアラ3頭、ワシミズク1羽、グリーングアナ1頭が来園。
 3月3日、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休園(〜3月23日)。7日から近畿圏の動物園水族館が始めたのを皮切りに、「#休園中の動物園水族館」という共通ハッシュタグをつけ SNS で情報配信を開始。
 3月26日、フランスワルトンのココア(雌・4歳)が横浜市立よこはま動物園(ズーラシア)からブリーディングローンで来園。
 4月19日、日本動物園水族館協会が推進し、毎年4月19日に全国の動物園や水族館でほぼ同時開催している「飼育の日」イベントが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止。天王寺動物園では代わりに YouTube によるライブ配信リレーを実施。
 4月7日、大阪府内に緊急事態宣言が発令されたことを受け、4月8日から当面の間休園(〜5月25日)。休園中はスタッフブログが動画で動物たちの様子を多数配信。
 5月30日、営業再開後最初の週末で多くの来園者があったため、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、入園制限を実施。以降混雑状況についてスタッフブログで発信されるようになる(土日祝事前予約制導入まで)。
 6月22日、3月31日をもって閉園したみさき公園からニホンジカ5頭(雄2、雌3)が来園。
 6月28日、毎日放送「情熱大陸」で天王寺動物園の休園中の様子について特集。
 7月8日、例年夏休みに開催しているサマースクールが新型コロナウイルス感染の拡大防止などを踏まえて中止。代わりに「天王寺動物園教室@オンライン」を8月8日から10日まで実施。



2021 (令和 3)

8月8日〜、長居植物園主催、天王寺動物園の協力、「動物と植物のつながりクイズスタンプラリー」を実施。
 9月1日、利便性の向上に加え、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、インターネットによるチケット販売及び入園予約(WEB チケット)を開始。土日祝の入園は事前予約制となる。
 9月30日、オウサマベンギン2羽がブリーディングローンで台北市立動物園へ出園。
 11月25日、ホッキョクグマのイッチャンが2頭の赤ちゃんを出産(内1頭は後に死亡)。

3月9日、新施設「TENNOJI ZOOMUSEUM」(てんのうじズーミュージアム)、「FooZoo」(フーズー)、「GooZoo」(グーズー)等がオープン。施設内の多目的ホールの机やイス等の備品一式と、休憩棟に設けられた授乳室の設備一式を大阪信用金庫様の創業100周年記念事業の一環として寄贈していただき、ホールは「だいしんワクワクホール」と名付けられた。
 3月23日、ホッキョクグマのイッチャン親子一般公開。赤ちゃんは父親であるゴゴと母親であるイッチャンをご寄贈いただいた、株式会社逢萊様のご提案でホウちゃんと命名。
 3月31日、牧慎一郎園長退職。
 4月1日、地方独立行政法人天王寺動物園発足。動物福祉を第一の柱に新たなスタートを切る。山中淳理事長就任。向井猛園長就任。「天王寺動物園 倫理と福祉の基準」策定。
 4月24日、大阪府域に新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく「緊急事態宣言」が発令され、臨時休園(〜6月21日)。臨時休園中のゴールデンウィークをライブ配信ウィークとし、毎日公式 YouTube チャンネルからライブ配信を実施。
 6月22日、「緊急事態宣言」の解除をうけ、感染症対策を講じつつ再開。
 8月13日、感染症対策を講じつつ、夏のナイト ZOO 開催(8月13日〜15日、21日、22日)。
 9月、「Amazon ほしいものリスト」を公開。
 10月4日、天王寺動物園とアークファンプロジェクトの主催で、コアラの世界を五感で楽しむ企画展「コアラライブラリー」を開催。
 10月17日、ニホンシギマの展示を開始。
 10月29日、ミナガヤギのミキキが死亡。
 10月31日、フタコブラクダのジャックが死亡。
 11月7日、「カバのテツオ君と歯磨き教室&クイズラリー」を大阪府視界様、毎日新聞社主催、デンタルプロ株式会社様の協賛により開催。
 11月17日、富田林市の小学生の皆さんなどが栽培した「奇跡の復興米」の稲藁を、富田林市「岩手県大槌町奇跡の復興米」栽培委員会様よりご支援頂く。
 11月21日、一般社団法人子ども感動体験プロジェクト様の主催で「みんなあつまれ!かみしばいがいっぱい!見て!作って!演じてみよう!〜」を実施。



2022(令和 4)

11月23日、鳥の楽園でクロトキが仲間入り。同日、「明治安田生命 Presents 明治安田生命×てんのうじどうぶつ×てんしば みんなの健スタンプラリー」を実施。
 12月11日、「SDGs について動物園で考える〜生き物みんなが生きていける持続可能な環境〜」を、国連環境計画国際環境技術センター様、大阪市環境局との共催で実施。
 12月26日、大阪暁光高等学校の学生が、天王寺動物園企画展「とらてん」に合わせて「BIG CAT から SDGs 多頭展」を開催。
 1月1日、天王寺動物園が所有している非公開2点の3Dモデルを、一般社団法人路上博物館との初コラボレーション企画として公開。
 1月25日、大阪市立聖和小学校と大阪市立桃洋小学校より新型コロナウイルス感染症の影響で給食用の野菜が破棄されることから水菜・ネギ・玉ねぎを頂く。
 2月13日、大牟田市動物園主催のライブ配信「たとえばこんなハズバンドリ〜福ちゃん〜」を実施。
 2月15日、1月14日〜30日まで募集した「鳥の楽園観覧通路に展示する写真展」で300枚を超える応募を頂き掲示する。
 3月28日、「動物園がもっと好きになる。水辺の生物たちと再会できる場所づくりを」と題して、水辺の生物たちが生き生きと過ごす姿を見て天王寺動物園を楽しんでもらうため、爬虫類生態館(アイファア)の日本の自然エリアの改修工費を募るクラウドファンディングを5月31日まで行う。
 4月18日、ニホンコウノトリのリコが死亡。
 4月27日、新施設「ふれんどしっふガーデン」のオープンを記念し、松井一郎大阪市長、近鉄不動産社長倉橋孝書様にご出席いただき記念式典を開催。
 5月21日、「世界のカワウソの日」の一環として、高知県立のいち動物公園、海遊館とともに「カワウソの未来のために〜ニホンカワウソに思いをよせて〜」を WEB でイベントを開催。
 6月30日、天王寺動物園のデータも使った研究が米科学誌「サイエンス」に掲載される。
 7月7日、JR 天王寺駅 中央改札付近のきつぷうりば(みどりの窓口)横に、天王寺駅と天王寺動物園が連携した「お知らせコーナー」が設置される。
 8月5日、イオンモール大日で天王寺動物園パネル展を開催。
 8月20日、カルフォルニアアシカのミークが亡くなる。
 9月3日、「動物の行動と管理学会」2022 年度大会において、大阪大学との共同研究の「飼育ホッキョクグマ母子における産室を出てからの子が 12 カ月齢を迎えるまでの相互交渉」が優秀発表賞を受賞。
 9月23日、「動物感謝祭」を有観客で実施。



To Be Continued...

